

平成 24 年度 金沢医科大学医学部入学試験問題
一般入学試験（数学）

1 原点Oを中心とする半径が $2\sqrt{2}$ の円Sと点O'(2, -2)を中心とする半径が $2\sqrt{6}$ の円Tがある。

この二つの円の交点を、x座標が小さいほうから順にA, Bとおく。このとき、三角形OO'B

において $\angle OO'B = \frac{\boxed{ア}}{\boxed{イ}}\pi$ である。また、三角形AO'Bにおいて $\angle AO'B = \frac{\boxed{ウ}}{\boxed{エ}}\pi$ 、三角形

AOBにおいて $\angle AOB = \frac{\boxed{オ}}{\boxed{カ}}\pi$ である。したがって、円Sの内側と円Tの外側との共通部分

の面積は $\boxed{キ}\sqrt{\boxed{ク}} - \frac{\boxed{ケ}}{\boxed{コ}}\pi$ となる。

2 二つの定数a, bに対して、xの関数 $f(x) = x^3 + ax^2 + b$ を考える。ただし、 $a \neq 0$, $-\frac{3}{2} < a < 0$ である。

この関数 $f(x)$ は $x=0$, $x=-\frac{\boxed{サ}}{\boxed{シ}}a$ のとき、それぞれ極値 b , $\frac{\boxed{ス}}{\boxed{セソ}}a^3 + b$ をとる。

また、二つの点 $(0, b)$, $(-\frac{\boxed{サ}}{\boxed{シ}}a, \frac{\boxed{ス}}{\boxed{セソ}}a^3 + b)$ を通る直線が $y=f(x)$ のグラフと

点 $(1, 0)$ で交わっているとき、 $a = -\boxed{タ}$, $b = \boxed{チ}$ となる。

3 $f(x) = \int_0^x (1 + 2 \cos 5t)^2 dt$ とするとき、 $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{f(x)}{x} = \boxed{ツ}$ であり、 $\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{f(x)}{x} = \boxed{テ}$ である。

平成 24 年度 金沢医科大学医学部入学試験問題 一般入学試験（数学）

[4] $x = \frac{3 + \sqrt{5}}{3 - \sqrt{5}}$ に対して、 x^2 と x^3 を x で表すと、

$$x^2 = \boxed{\text{ト}} x - \boxed{\text{ナ}}, \quad x^3 = \boxed{\text{ニヌ}} x - \boxed{\text{ネ}}$$

となる。

いま、二つの数列 $\{a_n\}$, $\{b_n\}$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) を $a_1 = 1$, $b_1 = 0$ および $n \geq 2$ に対して,
 $x^n = a_n x - b_n$ で決める。このとき, $n \geq 1$ に対して,

$$a_{n+1} = \boxed{J} \quad a_n - b_n, \quad b_{n+1} - a_n = \boxed{IN}$$

である。

5 整数 x, y, z が次の三つの等式を満たしているとする。

まず、①より x, y, z がすべて等しいことはない。つぎに、 $y = z$ であるとすると、②から①を引いて $-2|z-x| = \boxed{\text{ヒ}}$ となるので、 $y \neq z$ であることがわかる。同様に、 $x = y$ とすると、②から③を引いて $2|y-z| = \boxed{\text{フ}}$ となるので、 $x \neq y$ であることがわかる。また、 $x \neq z$ であることもわかる。そこで、 x, y, z の大小関係を、たとえば $x > y > z$ のように表わすと、その仕方は全部で $\boxed{\text{ヘ}}$ 通りある。その各々の場合を調べると、結局上の三つの等式を満たす整数の組み (x, y, z) は2組あり、 $(\boxed{\text{ホ}}, -2, \boxed{\text{マ}})$ と $(-\boxed{\text{ミ}}, \boxed{\text{ム}}, -\boxed{\text{メモ}})$ である。